**内宮 川曳コース**

- 10:00頃 浦田橋下手 出発
- 13:00頃 宇治橋横到着
- 14:30頃 五丈殿奉納

# 初穂曳（はつほびき）

神嘗祭をお祝いし、
感謝の心で
お初穂を奉納

**外宮領陸曳（げくうりょうおかびき）**
**内宮領川曳（ないくうりょうかわびき）**

**10月15日(火) 10時～12時30分**
**10月16日(水) 10時～14時30分**

毎年10月15日・16日の神嘗祭を奉祝する行事として、その年収穫されたお初穂（お米）を神宮に奉納する「初穂曳」。式年遷宮行事のひとつである伊勢の民俗行事として伝えられてきた「お木曳行事」、「お白石持行事」を伝えることを目的に昭和47年の伊勢大祭から毎年開催され、今年で第48回を迎えます。

## ●陸曳

15日の外宮領陸曳は、神宮の3台の奉曳車を使用し、お木曳・お白石持の荷締め技術を伝承する意義もあり、それぞれにお木、樽、そして米俵を積み、たわわに実ったお初穂が飾られます。曳き手は伊勢の町衆（各町から参加する市民の有志）や次世代を担う皇學館大学生、伊勢の子どもたち。そして県内外から神宮への崇敬の気持ちで参加される特別神領民による奉曳もあり、木遣り唄が秋空に響く中、約1500名が「エンヤー」のかけ声で車を外宮北御門に曳き入れます。そして初穂やお米をそれぞれ手にして外宮へ奉納、収穫への感謝をこめて参拝します。

## ●川曳

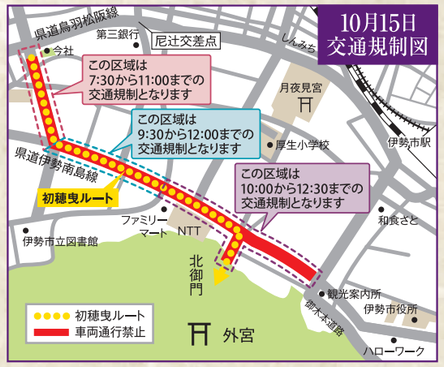
16日の内宮領川曳は、初穂船を曳き五十鈴川をさかのぼる川曳。旧内宮領地域で伝統的に川曳を行う町が例年持ち回りで行われ、今年は二見連合奉献団が担当します。浦田橋下流から、宇治橋まで、川の中を祭り装束で歩き進みます。宇治橋の上から多くの参拝客が見守る中、一気に川から神域へと初穂船を曳きこむ様子は壮観で、他にない伊勢ならではの秋の風物詩でもあります。

**外宮 陸曳コース**

- 10:00頃 高柳今社付近 一番車出発
- 10:20頃 二番車出発
- 10:40頃 三番車出発
- 11:15頃 外宮北御門 一番車到着
- 11:35頃 二番車到着
- 11:55頃 三番車到着

到着後 随時 奉納

※一番車子供・皇學館大学生、二番車は町衆、三番車は特別神領民が曳きます。
※スケジュールは予告なく変更になる場合があります。あしからずご了承ください。




## 平成から令和へ、受け継がれる日本のチカラ

### 懸税（かけちから）

神嘗祭の当日、ご正殿を囲む「内玉垣（うちたまがき）」には、「懸税（かけちから）」と呼ばれる全国から寄せられた稲の束がずらりと懸けられます。「税」は稲の上（じょう）代語（だいご）（一昔のことば）のこと。神様にチカラを受けていただき、また一年健やかにご活躍いただきたいという気持ちが込められています。毎年神嘗祭には天皇陛下ご自身が皇居でお作りになられた御初穂が神宮に献進されます。天皇陛下の御初穂には紙垂（しで）がつけられ、内玉垣に並び懸けられます。